

(単元名) 1年生に鰹節の秘密を伝えよう ～目的に応じた適切な情報を得る～
 (教材名) 「鰹節 - 世界に誇る伝統食」(新編 新しい国語2 東京書籍)

提案内容

単元構想

- ◆課題を踏まえて設定した「付けたい資質・能力」
「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得ること」「自分の知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめること」
- ◆単元を通して課題解決を目指す言語活動の設定
自分の最も伝えたい「鰹節の秘密」について、教科書教材や図書館資料等を活用して必要な情報を収集・整理し、紹介文にまとめる。
- ◆必然性のある学習課題の設定
筆者の主張である最後の一文と題名に着目させ、3学期に家庭科の授業で鰹節や出汁について学習する1年生に、「鰹節の秘密」を伝えるという学習課題を提示して、読む目的を持たせる。

模擬授業

- ◆探究課題の決定
教材文から抜き出した鰹節のよさをKJ法を用いて分類・整理する。相手や目的に応じた理由付けをし、最も伝えたいこと(これから調べたいこと)を決めて、問いの形にまとめる。

協議内容

- ◆言語活動・単元構想が適切であったか
 - ・対象(探究課題や紹介する相手)について: 生徒を主体的に臨ませようとする仕掛けがある。しかし、生徒の意欲喚起や、筆者の主張に応える観点から、調べる対象を「鰹節」に限定しない方がよいのではないか? また、1年生が知りたい情報であるのか、1年生だけでよいのか?
 - ・資質・能力に関して: 単元の中に、説明文を正確に読み取る活動が十分位置付けていないのではないか?

身に付けさせたい資質・能力を育成する手立てとして最適な活動を位置付ける。子供の学びが主体となる言語活動を設定し、単元の導入を工夫する。

参考:『新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり』p28、p64・65

- ◆模擬授業の「学び合い」の場の支援はどうであったか
 - ・生徒が設定した課題がそれぞれ違うので、助言しにくいのでは? 「伝えたい」思いが強くないと交流できない。→学び合いの目的と視点の明確化、動機付けが必要である。

講師の先生より

前鎌倉女子大学教育学部准教授
松永 立志 氏



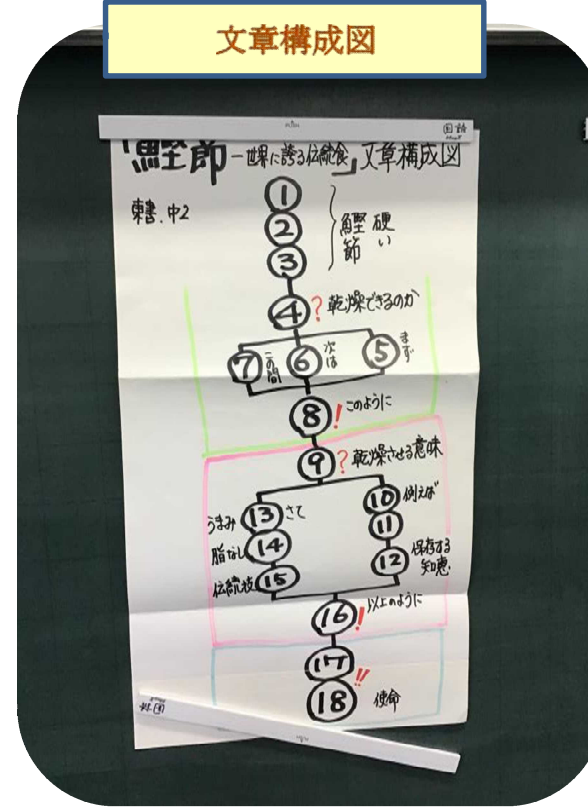
子供が主体となる単元構想になっている。

- ◆言語活動について
言語活動を設定することによって、無味乾燥な学習に魅力を感じ、意欲的に取り組ませることができる。子供には活動に熱心に取り組ませ、教師はねらいとする力を付けさせていくこと。言語活動を単元化すると、時間がかかる。(本単元の言語活動の対象を「鰹節」や「1年生」以外に広げると時間がかかる。)年間指導計画作成に当たって、検討が必要である。
- ◆説明文の指導について
小学校の課程で説明文を読む技術を身に付ける。(学習指導要領指導事項: 3～5年で技能の習得は完結。6年から、その技能を使って、「目的に応じて、必要な情報を読み取る」学習に進む。)小学校4年で、「文章構成図」が作成できる力を身に付けさせたい。

文章構成図を作成しよう!

まずは、教材研究から始めよう!

文章構成図

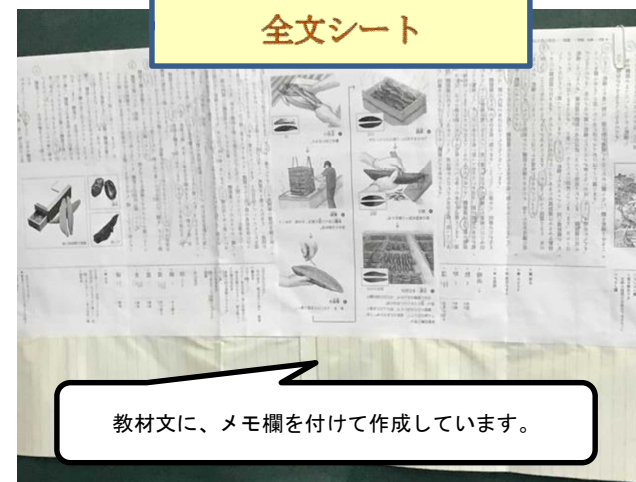


【学習の流れ】

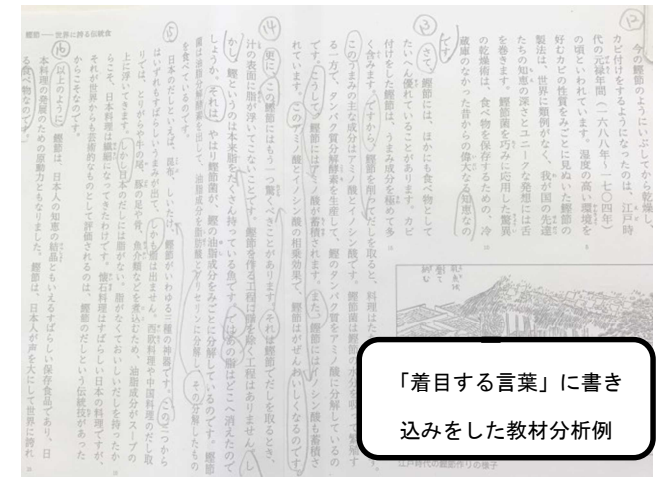
- 全文シートにチェックする。
○着目する言葉
指示語(こそあど言葉)
接続語(つなぐ言葉)
文末表現(～でしょうか、～なのです)
- 着目する言葉をヒントに、段落のつながりを考えて構成図を作る。
- 作成した構成図について説明し、構成図の違いについて話し合う。

根拠を挙げて、分け方の理由を説明できることが大事!

全文シート



教材文に、メモ欄を付けて作成しています。



「着目する言葉」に書き込みをした教材分析例

参加者の声

- ・単元で付けたい力が身に付くような単元構想になっているのか、必然性のある言語活動であるかについて、確認しながら授業づくりをしていきたい。
- ・説明文を読む技能の系統性について理解できた。自力で文章構成図を作ることができる力を育みたい。
- ・講師の先生が紹介された「全文シート」「文章構成図」を使った教材研究の方法を、自校に取り入れたい。

今回は、6月21日(金)鏡野中学校で開催します。

【東部教育事務所】